

16 (平成28)年11月1日、「第10回まち・ひと・しごと創生会議」の安倍総理による冒頭挨拶で、空き店舗等有効活用やまちの再生を図ることについて、以下の事例紹介があった。

「宮崎県日南市油津(あぶらつ)商店街は、公募に応じた街づくりの専門家のリーダーシップの下、土曜夜市の復活など、人が集まる仕掛けづくりを進め、多くの店舗やIT企業を誘致して、にぎわいを取り戻しました」

### 半世紀続く春期キャンプ

油津商店街が存する宮崎県日南市は、宮崎市の南部に位置し、「鶴戸神宮」など風光明媚な観光施設を擁しており、さらに、広島東洋カープによる春期キャンプが、64



油津港に近接する古い町並みに残る「油津レンガ館」(左)とアーチ型の「堀川橋」(右)

## ～文化的歴史的所産を巡る～ 残したい情景 第30回 宮崎県日南市



一般財団法人 日本不動産研究所

### にぎわい取り戻した「油津商店街」

# 人が集まる再生の好循環

る天福球場で開催され、熱烈なカープファンが県内外から応援に駆けつける。  
「鉄肥(おび)藩の主要港として栄え、歴史的な建造物が残っており、過去には「杉は山から鮪は海に、いつも油津よいところ」ともうたわれた油津は、鉄肥杉(約400年前に鉄肥藩の家臣たちが藩財政の窮乏を救うために山野に杉を植林したのが始まりとされる)を国内外に積み出す基地として、さらに、マグロなどの漁業基地として大正時代から昭和初期にかけて特に賑わいを見せた。油津港に近接

する古い町並みのなかに残っている油津赤レンガ館や杉村金物本店などの建物群や、堀川運河にかかるアーチ型の石橋(1903年完成の堀川橋)からも、過去の雰囲気を楽しむことができる。  
**人口倍増の時代も**  
このように鉄肥杉とマグロの取引で栄えた油津には、仕事を求めて多くの人が集まり、大正9年から昭和15年の間に人口が約2倍に増加し、それに伴って軽便鉄道

20店舗誘致を目指し再生にはずみ



き店舗が継続的に増加した。このような中、日南市は13(平成25)年4月に、中心市街地活性化事業の一環で「商店街に4カ年で20店舗の誘致」を公募要件にテナントミックスサポートマネージャーを公募し、専任された木藤亮太氏(当時38歳)による活動が開始された。14(平成26)年3月に、商店街再生事業に継続性をもたせるために(株)油津応援団が設立され、かつて市民の憩いの場となっていた喫茶店をリニューアル

したカフェ「ABURATSU COFFEE」が開店した。さらに、15(平成27)年12月頃には、長年利活用が進まなかったスーパ跡に多世代交流モールが開業し、その後も同商店街への出店意向の問合せが増加をみせ、空き店舗だった建物にIT関連企業が入居するなど、地元での雇用増加という面からも望ましい状況となった。

油津商店街の再生に関わる日南市長やテナントミックスサポートマネージャーなどの強い行動力もあって、衰退傾向にあった油津商店街は、若者によるチャレンジの場」という新たな側面を有する商店街に生まれ変わったのである。(宮崎支所/不動産鑑定士・西村哲治)